

令和8年度第3回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和8年7月16日（木） 午前9時15分～午後12時15分
2. 開催会場 コスモスパレット パレットⅠ 会議室2・講座室3
3. 出席者 棚橋明委員長職務代理、木名瀬昭一委員、小野ひとみ委員、上田一生委員、宮本楓美子委員、田揚正子委員、山川信一委員、奥田信康委員、高津浩司委員、田口由紀絵委員
4. 事務局 市民活動推進課 金子課長補佐、峰村係長、諫見
5. その他参加者 市民活動支援センター1名
6. 発表者 3団体
(提案5、6のみ同席：市関連部署環境保全課・浅井、田口、市民活動推進課・千葉井係長)
7. 傍聴者 議題（1）印西市情報公開条例第7条第5号の規程により、非公開
議題（2）1名、公開
8. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - （1）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）／スケジュール及び評価の確認について
 - （2）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
 - 3 閉会
9. 会議要旨
 - 2 議題
 - （1）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）／スケジュール及び評価の確認について
《事務局説明》
 - ・次第、資料1、2、3に基づき説明。
《委員質問・検討》
 - ・公開審査会のスケジュール及び審査方法を共有。
 - ・付帯意見の集約方法を確認。委員会を3グループに分け、3提案を分担して模造紙に集約し、グループリーダー委員が講評すること、また全体講評を委員長が行うこととした。
 - （2）企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
自由提案型1件、指定テーマ型2件の審査を実施。
【アイデア審査】
 - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
 - ②プレゼンテーション

【提案 2】 田んぼでつながる親子ふるさと体験事業

提案者の発表

提案者は P D F を使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問 1）本提案内容は田植え、草取りの実体験とあるが、実際の現場ではこれらの作業は全て機械化されている。実際に機械を操作するのか、それとも手作業で体験するのか。

（提案者回答）手作業で体験する。

（質問 2）PR・情報管理で募集チラシ 1,000 部、大判ポスター 100 部とあるが、どこに掲載するのか？

（提案者回答）まだ具体的にポスターの掲載場所は決まっていないが、よりたくさんの市民に伝えられるよう、工夫していきたいと思っている。

（質問 3）1 年で 1 家族 1 回までの参加に限定して行うとあるが、これでは 1 家族は田植えか、草取りか、稲刈りのどれか一つしか体験できないということになる。稲作農家の全体作業が見えなくなるのではないのか。

（提案者回答）まず、たくさんの方に興味を持ってもらう窓口として、設置したいと思っている。現在小学校の農業体験がほとんどない中で、体験する機会自体が少ない。より体験したい方には、民間の 1 年間行っている農業体験を紹介できると思っている。

（質問 4）11 月のお米の試食会は、田植え・草取りに参加した親子だけが対象か。

（提案者回答）基本的に試食会は、体験をした親子の方に収穫したお米を食べていただくのを目的としている。現段階では体験した方を対象としているが、会場のキャパによっては、体験者以外の人達の参加も考えられる。

（質問 5）地域農業の現状・課題に高齢化や担い手不足を挙げているが、地域農家はこの対策として、外国人農業技術実習生に頼っているのが現状。本事業が地域農業の理解を得る効果はあるが、大きな問題である地域農業の高齢化や担い手不足の改善にどのように寄与するのか、貴団体の考えを伺いたい。

（提案者回答）すぐに解決できるものではないと思っている。現在、国の方針も需要に合わせた生産をするようになってきているが、今の時代、食べるものの選択肢が多い中で、食べる側の需要に合わせて作ることが本当にいいのかと私自身は思っている。生活の中に田んぼが入り込むことで、お米を食べることを選択肢として入れてもらう。そうすることで、米の需要が高まり食べる人が増える。この体験が課題である高齢化や担い手不足を解決する 1 つの手段になると思っている。

（質問 6）印西で米を作ることの特徴は何か。この事業のアピールポイントはどこか。

なぜ印西で米なのかということと、収穫もしないとなると、PR の仕方を工夫する必要があるのではないのか。

（提案者回答）昨年、民間事業者として体験事業を行った際は、無農薬で育てる体験を 1 年間行

った。そのため生き物が多い。ザリガニやカエル等がいるので、お子さんが楽しそうにされている。

（委員）参加後ではなく、まず応募してくれるかが問題。稲刈りもなくなるということで、繋がりを感じられない。生き物の体験については、プレゼンに含まれていないし、伝えたいことをPRしないと伝わらない。

【提案5】里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）なぜ委託事業を考えなかったのか。

（担当課回答）印西の豊かな里山環境は、市民活動団体の活動があって保たれてきたところである。豊かな里山を今後もグリーンインフラとして生かしていくためには、市だけではなかなか難しい事業である。去年の協議会の中で出てきた意見としては、団体の共通課題として、高齢化による後継者不足がある。一つの案として、人材育成をする「里山大学」という取り組みを行う話が出ている。その制度についても市民活動団体の方と意見交換をしながら、プログラムを考えているところである。そのため委託事業ではなく、協働事業がふさわしいと考えている。

（質問2）協働提案者として、亀成川を愛する会、ラーバン千葉ネットワーク、矢田武西の原っぱと森の会、里地里山保全ねっと、の4団体がコアメンバーとなっているが、印西市にはこれ以外にも里山の自然環境の保全や活用に係る市民活動団体が多数存在し、活動している。貴団体としてもこれらの関連団体とのコミュニケーションを実施しているとのことだが、今後、どの位の協働提案者数を目指しているのかお伺いしたい。

（提案者回答）拡大を考えている。最近も交流会を行ったが、非常にいい感じで情報交換ができた。この交流会は里山保全団体のみだったが、ゆくゆくは農業者や、防災関係の里山を利用して活動している方々等と繋がって、問題解決のシステムづくりが可能になるのではないかと考えている。

（質問3）市民にとって分かりにくいと感じている。イベントをやっても興味がある方しか来ないのではないかと。関心のない人をどう巻き込むか。グリーンインフラの保全を、分かりやすく市民の人に伝える必要がある。普及啓発について、どのように考えられているのか。

（提案者回答）協議会は、協議会に所属している団体が元気になることを狙いとしている。協議会自体が何かを計画して仕掛けていくのではなく、団体一つ一つが持っているエリアが印西市に広がるのが目的。その中でアナウンスはしていきたいと思っているが、団体の方々に元気になってもらうために発信していきたいと考えている。

【提案6】 #私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～

提案者の発表

提案者はパワーポイントを使い、提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問1）サテライトの拠点は、どこを考えられていますか。

（提案者回答）市役所付近の大森地区を考えている。

（質問2）相談を受ける団体側も大変だと思うが、どのような体制で運営しているのか。

（提案者回答）夜間の相談は代表を中心に、スマートフォンで対応している。今後は、交代のことを考え、他の人も対応できる体制をとっていきたいと考えている。

（質問3）担当課は、どうサポートしているのか。

（担当課回答）相談を受けている内容や、時間体も様々で、協働事業を始めてから相談が多くなったと感じている。内容によっては、行政が関わって解決につなげていく必要がある案件も含まれているので、団体と連絡は密にしている。こういった相談者がいると連絡を受けた場合は、関係課に直接話をして、相談者が市役所に行きたくないとか、ハードルを感じることはないようにしている。民間の市民活動団体と手を取り合い、行政が関わっていくことが必要だと思っている。状況を把握し、正確に関係課と職員を繋げることが重要だと認識している。

③審査結果発表・講評

【審査結果】

提案 番号	事業名	○	△	結果 (可/否)
2	田んぼでつながる親子ふるさと体験事業	6	4	可
5	里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業	9	1	可
6	#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～	10	0	可

【講評】

提案毎に、担当の市民活動推進委員会委員より講評を行う。

【提案2】 田んぼでつながる親子ふるさと体験事業

- ・つくる側（農家）と食べる側（消費者）が直接顔を合わせて農作業をすることは、得難い体験であり、大いに期待します。
- ・稲刈りができない等、企画のアピール力が不足しており、集客力に不安感があります。
- ・「印西らしい暮らし」や「印西らしいふるさと」とは何か、検討してください。

【提案5】 里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業

- ・市の基本計画に沿った、意義のある事業だと評価します。

- ・活動内容が多く、抽象度も高いため、市民を巻き込む工夫が必要だと思います。
- ・市民にとって分かりにくい事業であるため、活動を多くの人に知ってもらえるようなPRが必要だと考えます。

【提案6】 #私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～

- ・丁寧に個人の悩みに寄り添った活動ができており、市民ニーズの高い事業であると評価します。
- ・この事業は継続的に実施することが、重要だと思います。前年度の事業実施から得られた課題について本年度も積極的に取り組み、事業のさらなる充実化を期待します。

【総評】

委員長より総評がある。

- ・ご苦労さまでした。3事業全て「可」ということで、おめでとうございます。提案6については、全員が賛成でした。提案2については、色々意見があって6対4ですから、最終審査では何かもう1つインパクトのある提案をされると、良いと思います。提案5については議論が出ますが、結果的に9対1でした。今後も頑張ってください。

【事務連絡】

- ・提案者に、本日の審査結果通知の予定を説明。また、アイデア審査を通過した提案者に、最終審査に臨むにあたっての三者協議や提出書類等の通知を説明した。
- ・最終審査を9月29日に実施することを説明。

以上

令和8年7月16日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は事実と相違ないので、これを承認する。

令和8年8月10日

会議録署名委員 木名瀬 昭一